

# ポーランド冬の旅 4都市のクリスマスマーケット



POLISH  
TOURISM  
ORGANISATION



ヨーロッパの冬の旅行体験として人気のクリスマスマーケット。毎年旅行者の投票により、ヨーロッパのベストを選出している「ヨーロッパ・ベスト・デスティネーション (EBD)」が発表した今年のクリスマスマーケットランキングで、ポーランドのグダンスクが1位に選ばれた。1990年代から始まったポーランドのクリスマスマーケットは、年々盛んになっている。熱心なキリスト教徒が多く、楽しさの中に厳かな雰囲気もある。時期は開催地により異なるが、11月末から1月6日までが多い。クリスマスマーケットを組み込んだ冬のポーランドの旅の魅力を探った。

## 参考●クリスマスマーケット開催日程

ヴロツワフ	2024年11月29日～2025年1月7日
クラクフ	2024年11月29日～2025年1月1日
ポズナン	2024年11月16日～2025年1月6日
ワルシャワ	2024年11月23日～2025年1月6日

※2025～2026年シーズンの開催情報はポーランド政府観光局ウェブサイト等で確認してください

## ヴロツワフ Wrocław

### ポーランド最大の規模を誇る



クリスマスマーケットは夢の世界

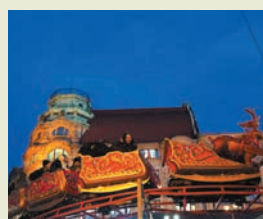
ポーランド南西にあるヴロツワフは、オドラ川に臨む美しい町。ワルシャワやベルリン、プラハから約350kmの距離に位置し、周遊にも便利だ。ボヘミア王国、神聖ローマ帝国、戦前まではドイツの一部という複雑な歴史が、景観や文化に彩りを与えている。

後期ゴシック様式の市庁舎が建つ旧市場広場を中心に開催されるクリスマスマーケットは、遊園地や巨大なクリスマスピラミッドがあり、飲んだマグカップを持ち帰れるホットワインなど本場ドイツ風。

市庁舎の半地下に創業1273年、欧州最古のビアセラー「ビヴニツァ・シフィドニツカ」がある。散策の後、こちらで食事とビールというのも捨てがたい。



ホットワインのカップは持ち帰り可能



遊園地にはジェットコースターもある



インスタ映えする飾りも多い



欧州最古のビール醸造所で4種類のビールを試飲



街の至る所に小人の銅像が

## ヴロツワフから陶器の町ボレスワヴィエツへ

ヴロツワフから西へ120km。ボレスワヴィエツでの工房見学、絵付け体験がおススメだ。愛らしい絵柄と素朴な味わい、レンジ対応する実用性で、日本でも人気沸騰中。現在38の窯元がある。窯元に併設したショップは割安感があり、お土産に最適だ。



スタンプを使って模様を描く



## クラクフ Kraków

### 欧州最大の中世から残る広場で開催



聖マリア教会とクリスマスツリー

古都クラクフのクリスマスマーケット会場は世界遺産の旧市街の中央広場。中世から残る広場としては欧州最大。織物会館や広場を一望できる旧市庁舎の塔、1222年に創建されたマリア大聖堂など観光名所が集まる。マーケットには地元の工芸品、特産のチーズや軽食に加えて、ハンガリーやリトアニアなどの料理、クリスマスの飾りなどさまざまな屋台がある。マリア大聖堂の塔の上から1時間ごとに時を知らせるラッパの音が響く。中世に逆戻りしたようなクラクフならではの雰囲気だ。

クラクフはグルメの町。広場から徒歩圏内にオシャレなレストランが軒を連ねる。最近では上質の国産ワインが増えてきた。ポーランド料理にワインも合わせてみたい。



ボンブキと呼ばれる手作りガラスでできた伝統的なオーナメント



ヤギのチーズはクラクフの南、山間のザコパネの名物



## 観覧車から幻想的なマーケットや町並みを堪能



国際見本市会場のクリスマスマーケット



人気の観覧車



ホットワインはすりガラスのカップで



旧王宮から市街を見下ろす

ポズナンは、ポーランド最初の王朝があった古都。ヴロツワフから北へ約180km。ベルリンとワルシャワの中間にある交易の要衝として栄えた。ルネッサンス様式の名建築の旧市庁舎の時計の横の扉から、毎日正午に出てきてツノを突き合う2匹の子ヤギの人形が人気だ。

クリスマスマーケットは3ヶ所で開催。国際見本市会場が最大だ。ホットワインを出す屋台は大入り満員。午後4時を過ぎれば暗くなる冬を、皆でワイワイと明るく過ごす。移動遊園地の観覧車には長い行列ができる。会場を覆うイルミネーションの幻想的なきらめきと、旧市街の落ち着いたたたずまいを眼下に眺められるのはこの時期だけで、寒い中を待つ価値は十分ある。

### ヴォルシュティンの迫力の機関庫博物館

ヴロツワフとポズナンの間にある欧州に残る数少ない現役の蒸気機関車の機関庫博物館。夏季は隣接する駅から蒸気機関車を運行。機関車、エンジンハウス、給水塔、機関車の向きを変える巨大な鉄道ターンテーブルなどを見学。間近に見る機関車の車輪、石炭の山などノスタルジックで迫力満点だ。



蒸気機関車の車輪は力強い



機関庫博物館の鉄道ターンテーブル

## 洗練された品揃えとスケートリンクが特徴



旧市街広場にできたスケートリンク



ワルシャワのシンボル「人魚の像」



手作りガラスでできた人形型のポンピキ

イルミネーションで有名なワルシャワでは、旧市街広場、バルバカン、旧王宮の向かい側で、小規模ながらオシャレなクリスマスマーケットが開催される。ワルシャワのシンボル「人魚の像」を中心に旧市街広場にスケートリンクが設置され、周りを囲む屋台ではホットワインや伝統料理「ピエロギ」を楽しめる。

城壁沿いの屋台では、鍛冶屋の実演があったり、素朴な民芸品が売られていたりする。ポーランドを代表する手作りガラスの「ポンピキ」も種類が豊富で、また周辺の土産物店より多少お買得だ。

### ショパンにひたる

ワルシャワ郊外のジェラズヴァ・ヴォラで生まれた国民的な作曲家、フレデリック・ショパン。ゆかりの地巡りは季節を問わない。博物館で週に数回、無料のピアノコンサートが開催される。第19回ショパン国際ピアノコンクールは2025年10月2日から10月23日に予定されており、日本からの注目度も高い。



### 日本料理が恋しくなったら、NOBUへ

素材の良さを感じるポーランド料理は日本人観光客に好評。それでも日本の味が恋しくなったら、ハイエンドな顧客向けに「NOBU」がある。世界的な料理人の松久信幸氏が手がけるホテル・チェーンで、レストランのみの利用も可能。ほっとする味わいだ。

